

Transition from “Journal of Natural Disaster Science” (JNDS) to “Journal of Disaster Science and Management” (JDSM) in 2020

英文誌「Journal of Natural Disaster Science」移行について

For the purpose of promoting effective scholarly communication between Japan Society for Natural Disaster Science (JSNDS) and Korean Society of Hazard Mitigation (KOSHAM) that aims at mutual exchange and management of intellectual assets, the two societies reached an agreement of collaboration that includes establishment of a new international journal named *Journal of Disaster Science and Management* (JDSM).

The international journal of JSNDS that has been published with a name of “Journal of Natural Disaster Science (JNDS) for 40 years is concluded in 2019. Then, being merged with KOSHAM’s Journal of Disaster Management, which is published in English, JNDS will be transformed into JDSM in 2020.

Manuscripts that have already been submitted to JNDS and have not yet been published will be transferred to the editorial process of JDSM based on agreement with authors. New submission in 2020 will be dealt with as potential papers published in JDSM.

We would like to express our sincere gratitude to all authors, reviewers, editors, and readers of JNDS for supporting the journal, activating discussions, and developing knowledge of Natural Disaster Science.

By extending international network, we will keep on making our best effort to improve the quality of our journal. We will be most grateful if you keep your interest in our journal.

Kaoru Takara, President, Japan Society for Natural Disaster Science (JSNDS)
Muneta Yokomatsu, Editor-in-Chief, Journal of Natural Disaster Science (JNDS), JSNDS
January 2020

韓国防災学会 (KOSHAM) との協力と 合同英文論文集 (JDMS) の発刊

1. KOSHAM との交流の経緯

平成25年(2013年)5月に韓国防災学会(Korean Society of Hazard Mitigation: KOSHAM)の関係者から連絡があり、日本自然災害学会と国際交流を進めたいという話であった。その後、2015年3月に仙台で、当時のKOSHAM会長 Sangman JEONG氏、国際交流担当副会長 Ilpyo HONG氏と協議し、KOSHAMと本学会の協力を推進することに合意した。2015年第1回理事会・評議員会の了承を得て、当面、お互いの年次学会に代表者を派遣し、情報交換等を行うこととした。

2015年9月の年次学術講演会(於：山口大学)にKOSHAMから3名が参加。Sangman JEONG会長(当時)が特別講演を行った。以後、KOSHAMからは、静岡、長岡、仙台、釧路と毎年の年次学術講演会に会長と幹部が参加している。2016年9月の年次学術講演会(於：静岡県地震防災センター)においてKOSHAMから4名が参加、Sangman JEONG会長が基調講演を行った。このときに両学会間での協力協定締結の提案があった。

日本自然災害学会からは、2017年2月のKOSHAM年次大会に塚原健一国際交流委員会副委員長を派遣し、相互の行き来が始まった。2017年9月28日に長岡で開催された日本自然災害学会に、Moo Jong PARK会長、Hwan Don JUN副会長、Tae Sung CHEONG英文学会誌編集長の3名が参加、総会において両学会の間で学術交流協定(Academic Exchange Agreement)を締結した。その協定に基づき、2018年2月、2019年2月には、会長の寶と塚原健一国際交流委員会委員長がKOSHAM年次大会に参加した。2020年も同様に参加する予定である。

日本自然災害学会では、国際セッションを企画するなどして、KOSHAMからの研究発表者(学生も含む)も受け入れている。寶及び塚原は、KOSHAM年次大会において基調講演をしたり、一般セッションで講演をしたりしてきた。毎年、2月下旬にKOSHAMの年次大会があるため、日本側は多忙な時期であることから、寶、塚原以外の会員がKOSHAMの年次大会には参加できない状況が続いている。今後、日本からの参加者を増やして交流をさらに深めていくことが望ましい。

2. 合同英文論文集への動き

この間、KOSHAMは2016年に英文誌 Journal of Disaster Management(JDM)を発刊した。2018年頃、KOSHAM側より、この英文誌と日本自然災害学会の英文誌 Journal of Natural Disaster Science(JNDS)とを合併して、日韓国際学術誌(新ジャーナル)にしないか、という打診があった。

学会側としては、長期海外出張中の横松宗太英文誌編集委員長とも相談し、理事会で2回審議し、新ジャーナルにする方向で進めることとした。2019年6月28日~29日に京都で、8月2日~3日にソウルで、Moo Jong PARK会長、Tae Sung CHEONG英文学会誌編集長らと、寶会長、塚原国際交流委員会委員長が、合同に向けての具体的な手順を定めた。2019年9月に釧路で開催された学術講演会の時に協定書を締結、両英文誌の合併がきまり、総会で報告した。

なお、JNDS が2019年で第40巻となっていることから、合併英文誌は第41巻から始めることに合意した。JNDS の40年の歴史を尊重してくださった KOSHAM 側の好意と理解に感謝したい。また、合併英文誌の名前を Journal of Disaster Science and Management (JDSM) とすることとした。

3. 合同英文誌 JSDM 運営の概要

この合同英文誌について、日本自然災害学会と KOSHAM との間で合意した内容を合意文書に記載の順に示すと、以下のようである。

- (1) 出版：年 4 回発刊する。各号 5 編以上の論文の収録を目指す。印刷製本版、電子版の両方を可能とする。
- (2) 最初の出版：2020年9月または2021年3月。
- (3) 所有権 (Ownership)：両学会が等しい所有権を有する。
- (4) 誌名：Journal of Disaster Science and Management (JDSM) とする。
- (5) サイズ：A4版とする。
- (6) 表紙に記載の内容：誌名、出版年月、ISSN、巻・号、両学会のロゴ。
- (7) 事務連絡者：編集長 (4 人)
- (8) 編集長 (Editors-in-Chief)：寶馨、Tae Sung Cheong、両学会会長 2 人。
(注：寶が2020年度は会長を退くため、このような構成とした。)
- (9) 編集委員会 (Editorial Board)：10人 (両学会から 5 人ずつ出す)。この委員会が査読者の決定、査読プロセスから掲載の可否判定までの作業を行う。
- (10) 国際編集委員会 (International Editorial Board)：20人 (両学会から10人ずつ推薦する)。この委員会のメンバーは、査読者にもなり、英文論文の校閲の役割も担う。
- (11) 英文誌管理委員会 (Journal Management Board)：10人 (両学会から 5 人ずつ推薦する)。この委員会は、JDSM システムの発展、運営経費、購読者の開拓などの役割も担う。

4. 新ジャーナルの管理システム

KOSHAM の現行英文誌 JDM では、OSS (Operating Service System) を開発し、オンラインでの投稿受付、査読、掲載の可否判定、論文掲載という一連のプロセスを処理するシステムとして運用している。このシステムを新ジャーナル向けに改良し、JSDMOSS として運用する。したがって、今後の英文論文の投稿、査読のプロセスは、この JSDMOSS によって行われることになる。新ジャーナル JSDM は、JSDMOSS のウェブサイト <http://www.jds moss.org> で参照できる (2020年公開予定)。すなわち、新ジャーナルで掲載された論文は、このウェブサイトで公開される。なお、このシステムの開発経費は、KOSHAM 側が負担することで合意している。

査読体制は、編集委員会 (または同委員会が推薦する者) の 2 名 (日本人、韓国人)、国際編集委員会 (または同委員会が推薦する者) 1 名の 3 名体制で行う。多くの投稿を促すため、投稿料は当面の間無料。英文校閲は、国際編集委員会からの査読者が査読のプロセスの中で行う (無料)。

論文投稿から査読のプロセスを大雑把に示すと下図のようになる。

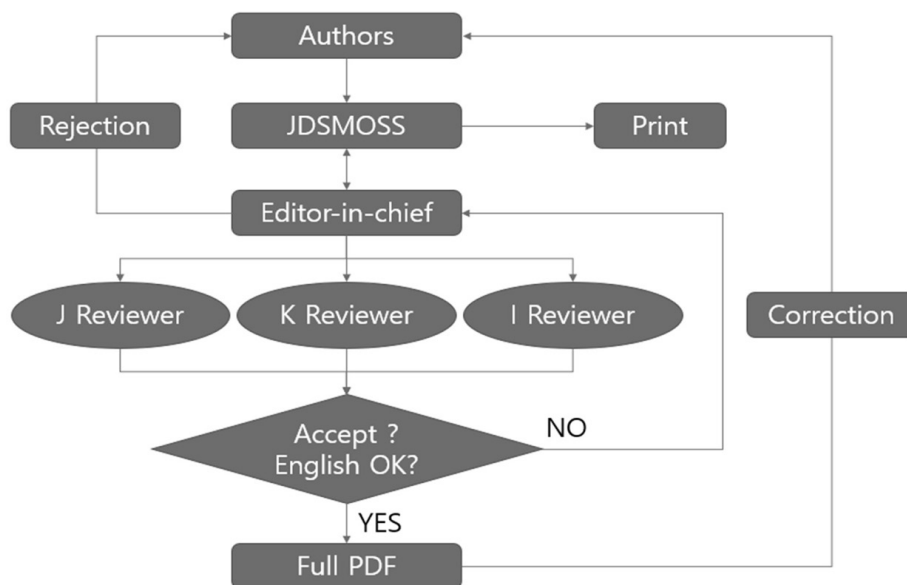


図 JDSM の投稿・査読のプロセス

5. JNDS からの引き継ぎ

現行の JNDS に既に投稿されて査読中の論文は、査読が終了し掲載が決定したら、新ジャーナル JDSM に引き継がれ、JDSM に掲載されることになる。2020年以後の投稿論文は JDSMOSS に投稿されたい。また、J-STAGE においては、JNDS を改名して JDSM として登録し直し、引き続きこれまで同様の取り扱いが継続されるようにする。

冒頭の新ジャーナルへの移行の案内文は、横松宗太英文誌編集委員長とともに作成したものである。これをウェブページにも掲載し、会員及び投稿者に周知する。

(寶 馨・塚原健一・横松宗太)